

令和 7 年度

学校関係者評価 報告書

評価期間

自：令和 6 年 4 月 1 日

至：令和 7 年 3 月 31 日

令和 7 年 5 月 1 7 日

学校法人九州呉学園 専門学校日本デザイナー学院

本報告書は平成25年3月に文部科学省生涯学習政策局の作成『専修学校における学校評価ガイドライン』及び、特定非営利活動法人私立専門学校評価研究機構の作成『第三者評価システムの概要 Ver 4.0』に準拠し実施した。

【学校関係者評価委員会】

委員長(業界関係者代表)

井上 憲一郎(井上総合印刷株式会社 代表取締役)

委員(業界関係者代表)

佐野 直樹(株式会社ダブルベース 取締役)

委員(業界関係者・卒業生代表)

日高 信生(株式会社ディーゼロ 執行役員)

委員(業界関係者・卒業生代表)

宮崎 智文(トゥモローデザイン)

委員(高等学校代表)

田中 智

(学校法人恭敬学園 学園長)

委員(地域代表)

井浦 賢治(東住吉公民館 主事)

事務局

野村 佳弘(事務局長)

大賀 琢実(教務課長)

目 次

1. 学校の教育目的と使命	P 3
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	P 3
3. 点検項目の評価結果	P 4 ～ 1 2
(1) 教育理念	P 4
(2) 学校運営	P 5
(3) 教育活動	P 6 ～ 7
(4) 教育成果	P 7 ～ 8
(5) 学生支援	P 8 ～ 9
(6) 施設整備	P 9 ～ 1 0
(7) 学生募集	P 1 0
(8) 財務	P 1 0 ～ 1 1
(9) 法令順守	P 1 1
(1 0) 社会貢献	P 1 1 ～ 1 2
(1 1) 国際交流	P 1 2
4. 学校関係者評価委員の評価結果について	P 1 3

1. 学校の教育目的と使命

目的：産業経済と生活文化に携わる有能なクリエイターを育成することを目的とする。

使命：クリエイターの職能上必要適切な教養と技術を習得させ、あわせて人間形成に努め社会人としての自覚と責任を持たせるよう指導することを使命とする。

【職能的指導方針】

1. 基礎知識、技術の習得
2. 専門基礎知識、技術の習得
3. 専門知識、技術の習得

プロとしての基本知識と技術の習得、創造性豊かな人材育成を教育指導方針とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・教育内容の整備：業界のニーズに合わせた実践的な教育と企業や行政との産学連携を徹底し、各コンテスト等での受賞を目標とする。
- ・学習環境の整備：古くなった機材の入れ替えを行い、最先端の学習環境への整備を行う。
- ・情報公開の整備：学園の基本情報等を公開し、外部の方への透明性と理解度を高める。

3. 点検項目の評価結果

自己点検・評価結果(4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切)を基に学校関係者評価委員会で点検・評価を行った。

(1) 教育理念に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
1-1)	教育理念・教育目標は示されているか	4…適切
1-2)	学校の特色は示されているか	4…適切
1-3)	学校の将来構想は示されているか	4…適切
1-4)	学校の理念・目的・特色などが学生・保護者に周知されているか	3…ほぼ適切
1-5)	各科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3…ほぼ適切

□自己評価総評・取り組み

様々な場で教育理念や教育目標・特色・将来構想などの周知を行っている。学生・保護者に対しては入学前から可能な限り学校の情報を丁寧に説明することを心がけている。職員・講師という立場の違いから認識の統一を図ることが課題となる。様々な場での周知を徹底することと、ホームページ等でも情報を発信することで少しでも学校の情報を周知できるように引き続き最善を尽くす。

□学校関係者評価委員会コメント・質疑

- ・3…ほぼ適切なので3ポイントが取れていれば評価して良いのではないかな？
- ・アンケート結果を踏まえると踏み込んだ回答が多いように思える。学校に対する期待やもっともっと良くなってほしいという期待の表れと評価したい。アンケート回答者が他人事として回答しておらず自分事として捉えている証拠であり、そういった職員・講師の姿勢が何より重要。数年で学校の施策や想いが浸透してきたのではないかな。学生の立場にたってより良い教育を行っていききたい、という気持ちの表れと捉えている。

□改善策

講師会や講師分科会などを活用した情報周知の徹底を引き続き行っていく。各科ごとに定められた教育目標を改めて周知させるなど、基本的な内容の確認から丁寧に説明を継続していく。

(2) 学校運営に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
2-1)	運営方針は定められているか	4…適切
2-2)	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4…適切
2-3)	運営組織や意思決定機能は示されており機能的な構成となっているか	4…適切
2-4)	人事や給与での処遇に関する制度は整備されているか	3…ほぼ適切
2-5)	意思決定システムは確立されているか	3…ほぼ適切
2-6)	業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4…適切
2-7)	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4…適切
2-8)	情報システム等による業務の効率化が図られているか	4…適切

□自己評価総評・取り組み

全体的に高い評価となっている。意思決定システムや人事や給与制度など、学園全体として整備しているが細かなところを理解していない職員・講師がいるため、もっと丁寧に細かな説明が必要かと考えている。「適切だと思える」や「講師を大切にしている」、など高評価なコメントもある中で、「講師からの要望に対し判断が遅くなることもある」、などは改善ポイントとして上げられる。

□学校関係者評価委員会コメント・質疑

日本の景気が悪くなっていることなどを踏まえると学校の制度・人事・給与などはこれまで以上に丁寧に説明をしたほうが良い。

□改善策

改めて講師陣全員に対し個々に制度の説明を行う必要がある。また判断から実行までに時間を要する場面があったが、この課題を改善すべく組織体制の見直しを行った。今後は新たな体制が効果的に機能するよう、PDCA サイクルを着実に回しながら運用していく。

(3) 教育活動に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
3-1)	教育活動は教育理念等に沿った編成・実施方針となっているか	4…適切
3-2)	カリキュラムは業界の人材ニーズに対応しているか	3…ほぼ適切
3-3)	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3…ほぼ適切
3-4)	キャリア教育・実践的な職業教育の視点にたったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが反映されているか	3…ほぼ適切
3-5)	定期的カリキュラムの見直しはなされているか	3…ほぼ適切
3-6)	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	3…ほぼ適切
3-7)	成績評価の基準は明確になっているか	3…ほぼ適切
3-8)	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3…ほぼ適切
3-9)	授業評価は実施されているか	4…適切
3-10)	資格取得等に関する指導体制やカリキュラムはできているか	3…ほぼ適切
3-11)	人材育成目標の達成に向けて授業を行う講師を確保しているか	4…適切
3-12)	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3…ほぼ適切
3-13)	関連分野における先端的な知識・技能等を取得するための研修や教員の指導力育成や向上のための取組が行われているか	3…ほぼ適切
3-14)	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3…ほぼ適切

□自己評価総評・取り組み

大型産学連携の複数回の実施や多くのコンテストでの受賞など、教育活動の成果が確実に
出ている。業界の第一線で活躍している講師陣により質の高い教育を提供できている。ク
リエイティブという業界だからこそ講師陣が求めるカリキュラムは均一ではなく、個々の
経験に基づき求めるカリキュラム構成にばらつきがある。時代の背景も踏まえ講師陣の意
見を丁寧に集めカリキュラム改革を定期的実施していく。

□学校関係者評価委員会コメント・質疑

- ・授業の科目によっては「基礎を多めにしたほうが良い」「応用を多めにしたほうが良い」
など異なってくる。そのコントロールは誰が行っているのか？
⇒講師が主導を持つことが多い。授業の進捗具合に合わせて調整が必要なため、基本的
には講師陣がコントロールしている。
- ・教務課がリーダーシップを発揮して学校主導で進めていることをもっと理解した貰った
ほうが良い。
- ・教務課がリーダーシップを発揮できていないことも多々あるので改善が必要。
- ・学校側と講師がそれぞれの立場でリーダーシップを発揮することで「1.教育理念」や「目

標」のさらなる浸透にもつながっていくのではないかな。

- ・講師陣に期待していることはどのタイミングで伝えているのか？

⇒事前に担当学科の教育目標および担当科目での習得目標を伝達している。また、分科会などで講師陣とカリキュラムや運営の改善について定期的に話し合っている。

- ・分科会等では方針を伝えるだけではなく、個別で話をしたほうが良い。個別で話をしていくことで多くの課題が解決するのではないかな。講師陣と学校側で、日常的な雑談やちょっとした対話の機会が増えていくことで、より良い成果が生まれていくのではないかな。

□改善策

学校側リーダーシップを発揮してカリキュラムの改革を進めて行く。また職員・講師の理解度を高めると共に講師陣の希望や改善点を明確にするために教務課職員と全講師との個別面談を実施していく。

(4) 教育成果に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
4-1)	就職率を向上させるための施策は図られているか	4…適切
4-2)	資格取得またはコンテストでの受賞の向上が図られているか	4…適切
4-3)	退学者を減らすための施策は図られているか	3…ほぼ適切
4-4)	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4…適切
4-5)	卒業後の社会的な活動を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4…適切

□自己評価総評・取り組み

多くの項目で4…適切にポイントが上がった。就職対策については数年前から施策を改革し、より細かな視点で入学から卒業までの支援に変更をした。学生のモチベーションや行動など、変更の結果が2024年度より明確に表れている。退学率に対しては学費の問題や進路変更などが大半を占めている。入学後での対応だけではなく、入学前からの対策が必須となる。

□学校関係者評価委員会コメント・質疑

- ・就職率を上げる施策は何を行ったのか？就職対策の効果により授業に対する興味も変わってくるのではないかな？
- ・2024年度より学生の意識が大きく変わっていることが明確にわかるようになった。

- ・退学者を減らす対策はどのように対応しているのか。「学力不振」「不登校生」についてが対応を知りたい。

⇒「学力不振」「不登校生」とならないように定期的な個別面談や保護者への連絡などを行い予防的対策を重視して取り組んでいる。

□改善策

入学前の個別面談の強化や面接時での聞き取りおよび説明を強化することで元々持っている学生の課題をしっかりと把握する必要がある。また、業界の理解度が低い入学希望者に対する業界説明の強化も必須と考えている。授業を担当する講師と学生の関係性が深まることは必然であり、そういった状況を鑑みて卒業生の活動把握については職員と講師の情報共有が重要となる。

(5) 学生支援に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
5-1)	就職に関する支援体制は整っているか	3・・・ほぼ適切
5-2)	学生相談などの支援体制は整っているか	4・・・適切
5-3)	学生への奨学金等の経済的支援は整っているか	4・・・適切
5-4)	学生の健康管理に関する支援体制は整っているか	3・・・ほぼ適切
5-5)	課外活動に関する支援体制は整備されているか	3・・・ほぼ適切
5-6)	学生の生活環境への支援体制は整備されているか	3・・・ほぼ適切
5-7)	保護者と適切に連携しているか	3・・・ほぼ適切
5-8)	卒業生への支援体制はあるか	3・・・ほぼ適切
5-9)	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3・・・ほぼ適切
5-10)	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3・・・ほぼ適切

□自己評価総評・取り組み

各項目に対して対策を講じてはいるが情報の共有だけでなく、講師・職員に理解・把握してもらうことに大きな課題がある。卒業後の支援により仕事に繋がっている卒業生も多く存在しているが卒業生支援については一層強化をしていきたい。そのためには校友会の協力が必須と考えている。西島伊三雄特待生制度の新設や家計が急変した学生への経済支援も継続して実施しており、当校ならではの支援も継続的に実施している。

□学校関係者評価委員会コメント・質疑

- ・支援体制については学校任せになっている部分があるため情報収集していない可能性はないか？この項目も個別面談でしっかりと情報を伝達していけば評価が上がる可能性がある

ある。

- ・同窓会は実施したほうが良い。不安を抱えている卒業生が多いと思うので貴重な場となる。
- ・就職できなかった卒業生、就職したけど現在困っている卒業生を対象と考えた場合、「困ったときに学校に相談しよう。」と思ってもらえるのか。頼れる人がいるか、いないか、が重要であり、一方的に学校が支援を投げかけるものでもない。
- ・卒業生支援は何を目的に実施するのか。就職できなかった卒業生がいるのであれば就職できていない卒業生ほど同窓会などには来にくくならないのか。対象を明確にした上で対策を講じたほうが良い。

□改善策

定期的を実施している施策の情報発信を行い、講師・職員の理解度向上を図る。保護者に対しては保護者説明会だけではなく、定期的な情報発信による連携向上が必要となる。校友会活動を活発化させ、対象を明確にした上で卒業生が集えるようなイベントを開催していきたい。

(6) 施設設備に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
6-1)	施設・設備はカリキュラムに対応出来ているか	3・・・ほぼ適切
6-2)	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3・・・ほぼ適切
6-3)	防災体制は整っているか	4・・・適切

□自己評価総評・取り組み

講師の出講希望日と教室の空き状況が課題となってきた。講師の出講希望日が被ることが多く対策が必要となる。学生の教育的効果が最重要となるため、教育的効果を優先した時間割作成を進めて行く。機材については毎年入れ替えを行っており、2024 年度も記載入れ替えを実施している。2025 年度も同様に実施予定。新校舎設立から 10 年が経つため、2025 年度より大規模な修繕工事を数年間かけて実施していく。

□学校関係者評価委員会コメント・質疑

- ・教室数は近々の課題となる。時間配分をやりくりし学生に不利益が生じないように対応してほしい。

□改善策

学生の教育的効果を第一優先とし、講師の希望授業開始時間と教室稼働を考慮しながら可能な限り調整を行っていく。また 2025 年度も機材の入れ替えを実施し、大規模な施設修繕工事を実施していく。

(7) 学生募集と受け入れに関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
7-1)	学生募集の活動は希望者の意向を配慮し適切に行われているか	4…適切
7-2)	教育内容を適切に学生募集に反映しているか	4…適切
7-3)	入学選考の時期・基準・方法は適正か	4…適切
7-4)	納付金は妥当なものとなっているか	4…適切

□自己評価総評・取り組み

学生募集については適切な募集を行っているとは評価されている。入学希望者に対し、入学前の説明（入学対象者の入学後のイメージ）と入学後の学生生活に乖離が起きないように学校説明の制度を高め、丁寧に説明していく必要がある。

□学校関係者評価委員会コメント・質疑

事務局からの報告・改善策で意見は一致した。

□改善策

引き続き適正な学生募集活動を重視していく。広報担当者の説明の制度を高めるためにカリキュラムの細かな部分まで理解度を高める。また、高校生ひとりひとりと向き合い、丁寧に学校の情報を伝える。

(8) 財務に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
8-1)	中長期的な財務基盤は安定しているか	4…適切
8-2)	予算・収支計画は有効かつ妥当か	4…適切
8-3)	会計監査は適正に行われているか	4…適切
8-4)	財務情報公開の体制整備はできているか	4…適切

□自己評価総評・取り組み

公認会計士(監査法人)による会計調査を受け、私立学校法および寄附行為にもとづき、選任された2名の監事が財務会計監査を実施している。適切な財務管理を行っている。

☐学校関係者評価委員会コメント・質疑

事務局からの報告・改善策で意見は一致した。

☐改善策

引き続き学園本部と連携し、透明性があり適正な財務管理を行っていく。

(9) 法令順守に関すること

評 価 項 目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
9-1)	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4…適切
9-2)	個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	4…適切
9-3)	自己評価の実施と問題点について改善に努めているか	4…適切
9-4)	自己評価結果を公表しているか	4…適切

☐自己評価総評・取り組み

法令や設置基準を遵守すべく最善の努力をしている。昨年に続き全項目で4ポイントを獲得しており、適切な対応がなされていると評価できる。

☐学校関係者評価委員会コメント・質疑

事務局からの報告・改善策で意見は一致した。

☐改善策

引き続き学校の取り組みを理解してもらえよう徹底していく。

(10) 社会貢献に関すること

評 価 項 目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
10-1)	教育資源や設備を活用しての社会貢献はなされているか	3…ほぼ適切
10-2)	学生のボランティア活動に対する支援は整備されているか	3…ほぼ適切
10-3)	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	3…ほぼ適切

☐自己評価総評・取り組み

ボランティア活動については定期的に学生達に告知をし、5～10名程度ずつではあるが実際に参加している。JC との連携による社会貢献活動や地域に対する連携なども実施してきた

がいか頻度を高めるかが課題となる。

□学校関係者評価委員会コメント・質疑

・公民館からも夏祭りなどでボランティアを依頼したいがお願いできるのか？

⇒是非ご連絡いただきたい。学生の経験となることは積極的に学生達に告知をしていく。

□改善策

フォローをする職員の人員的な要因があるため、いかに頻度を上げ実施していく体制を作っていくのか検討の土台に上げる。

(11) 国際交流に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
11-1)	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4…適切
11-2)	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4…適切
11-3)	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4…適切
11-4)	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4…適切

□自己評価総評・取り組み

留学生の受け入れについては課題である。全体として留学生の比率が低い。マレーシア校と連携をし、マレーシアからの留学生受け入れを実施している。マレーシアからの留学は姉妹校との連携により、経済的問題・日本語能力の問題をクリアし、受け入れが出来ているが、日本国内からの受け入れは経済的な問題や日本語能力の問題により難航している。クリエイティブという分野の特性により専門用語が多くなるため、日本語能力は入学選考において重視している。今後、積極的に留学生を受け入れていく必要があるが経済的な問題、日本語能力の問題をクリアしていく必要がある。

□学校関係者評価委員会コメント・質疑

・留学生の数は何名程度いるのか。公民館としては多文化共生に取り組んでいきたいと思っている。留学生は紹介してもらえるのか？

⇒是非声をかけていただきたい。留学生たちのコミュニティを広げると共に日本の文化も含め留学中に様々な経験をしてもらいたいと考えている。

□改善策

日本語学校訪問や留学生向けのガイダンスに積極的に参加していく。姉妹校であるマレーシア校とも連携を強化し、両校学生が各国で活躍できる仕組みを検討していく。

4.学校関係者評価委員の評価結果について

上記報告書は、学校関係者評価委員として、
妥当な評価であることを確認し、認めます。

令和7年 5月 XX日

【学校関係者評価委員会】

委員(業界関係者代表)

井上 憲一郎(井上総合印刷株式会社 代表取締役)

委員(業界関係者代表)

佐野 直樹(株式会社ダブルベース 取締役)

委員(業界関係者・卒業生代表)

日高 信生(株式会社ディーゼロ 執行役員)

委員(業界関係者・卒業生代表)

宮崎 智文(トゥモローデザイン)

委員(高等学校代表)

田中 智(学校法人恭敬学園 学園長)

委員(地域代表)

井浦 賢治(東住吉公民館 主事)